

令和7年度 第3回近江八幡市水道事業運営委員会 会議記録（別紙）

開催日時 令和8年3月6日(木) 14:00～15:05
 開催場所 近江八幡市役所4階 委員会室3
 出席者 ◎西谷委員長、○根来副委員長、山下委員、北川委員、
 井上委員、中田委員、田中委員
 欠席者 小椋委員、伊関委員
 事務局 【水道事業所】中西所長
 【上下水道施設課】苗村課長、(水道G)周防課長補佐
 【上下水道総務課】大野課長、(料金・総務G)井狩課長補
 佐、藤主事 (経営G)友岡課長
 補佐、福島主査、木村主査、日
 岡主査、中村主事

< 内 容 >

	1. 開会 水道事業所長挨拶
委員長	2. 委員長挨拶 水道経営ビジョン見直しの最終回であり、ここでの議論を踏まえ、市長への答申となる。ホルムズ海峡の閉鎖など世界情勢が不透明で、エネルギー価格・物価の見通しも難しい状況だが、現時点で得られる情報をもとにベストに近い選択をするのが我々の役割と考えている。水道経営ビジョン等の記載内容も含めて委員の皆様にはチェックをしていただきたいと思う。
委員長	3. 議事 議事について事務局より説明をいただきたい。
事務局	・「近江八幡市水道経営ビジョン（経営戦略）の見直し ～持続可能な水道事業経営のための水道経営ビジョン～」 【資料1】 【資料1】に基づき説明。 配布資料のうち建設改良費に関する説明資料は現時点で未確定のため、回収させていただく。
事務局	先ほど指摘のあった「近八幡市水道経営ビジョン2026（案）」【資料2】のP13の図2.6.4については事務局で修正する。
委員長	3年ごとの改定となると3回のシステム変更が必要となり、その都度ベンダーへの費用が発生することについては指摘しておきたい。 また、改定後の見通しでは、令和15年度には当期損益および経常収支比率はかろうじて黒字となる一方、料金回収率は100%を下回っていることから一定の懸念は残るものの、資金残高には一定の余裕があるため、問題はないとの判断がなされたものと考えられる。 何か質問等はあるか。
委員	特にない。
委員長	それでは、答申案について事務局より説明いただきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「近江八幡市水道経営ビジョン（水道事業経営戦略）の改定について」【資料4】
事務局	【資料4】に基づき説明。
委員長	委員会名簿の役職部分については体裁を統一していただきたい。付帯意見の箇所等について、何か意見はあるか。
委員	特にない。
委員長	3月11日の会場は決まっているのか。
事務局	確定はしていないが応接室になる予定である。また、報道機関への報告は予定していない。
委員長	承知した。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後のスケジュールについて」【資料5】 【資料5】に基づき説明。
事務局	3月11日の諮問の際に同席予定の委員はいるか。
委員	特に予定はない。
事務局	3月議会において、県水の購入単価が令和9年度から約9.2%上昇することによる影響について質問があった。これに対しては年間費用が5千万円ほど増加するといったシミュレーション結果を回答している。改定率については、社会情勢を踏まえつつ必要に応じて微修正を行いながら公表し、議論を進めていきたいと考えている。
中田委員	西の湖でアオコが発生した影響で牧浄水場の取水口にヘドロがたまっており、水道水の水質悪化や異臭の発生が問題となっている。牧浄水場の取水口をより琵琶湖の沖の方に移すなど、水質改善に関する考えを持ってもらえるか。
事務局	臭気対策については、2年前から検討を行っている。牧浄水場については、用地の制約や費用対効果の観点から、検討を一時中断していた。しかし、今年度からは高性能の活性炭を使用する等の取り組みを実施している。取水場の変更については、水利権の問題など高いハードルが存在する。そのため、改修や耐震化に併せて、今後検討を進めていかなければならないと考えている。
中田委員	牧浄水場で多くの水が取水できると、県水の水を減らせるなどメリットもあるかと思う。琵琶湖はいい水が流れているので、より良く利用する方法を検討いただければと思う。
副委員長	取水場の変更については、同じくハードルがかなり高いと感じている。西の湖の問題については、昨年は長浜等の最北端の地域にまでカビ臭が発生していたため、取水口を延長したとしても、それで万全であるとは言えない状況である。対応のためには活性炭が必要であるが、活性炭は海外からの輸入に依存している。活性炭費用についても、外的要因の影響により価格の上昇が見込まれており、大変厳しい状況である。
事務局	西の湖の問題については、根本的な部分の解消は県とも連携し市全体として取り組んでいる。水の滞留が大きな原因であることは判明しているため、水の流れを解析して滞留を防ぐための対策を講じようとしている状況である。

事務局	他に意見はあるか。
委員	特にない。
副委員長	4. 閉会 琵琶湖のシステムは非常に複雑化しており、将来の状況が見通せない状態である。近年は温暖化の影響により水位が上昇し、その結果、様々なプランクトンが年中を通して発生している。カビ臭の問題は以前から存在していたが、近年ではその原因となる微生物の名称が特定できない状況にある。このような過去のデータに基づく予測が困難になっているという点についても注視していただき、県を含めた包括的な視点から対応を検討していただきたいと考えている。